

FREE 無料

泉州の歴史再発見！

Senshu
Jin

Powered by
歴史人
vol.1

泉州人



新鮮グルメと
歴史の詰まった
泉州の漁港リポート



大阪の食と文化を
支えてきた
泉州の地

6次産業の先駆けだった
泉州の水産物

歴史の荒波を乗り越えた
岸和田城

農産物を育む
雨乞い踊り



うまし！

大阪の

食と文化を

支えてきた

泉州の地



水なす



今回取り上げるのは
「岸和田周辺エリア」です

「泉州」とは、大和川以南の大阪湾岸沿いに連なる、堺市、高石市、泉大津市、和泉市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市、田尻町、泉南市、阪南市、岬町という9市4町の総称だ。8世紀に定められた旧国名の和泉国の別称でもある。

大阪湾の海に加え、温暖な気候で育つ泉州野菜など食材の宝庫で、仁徳天皇陵古墳や岸和田城などの史跡や神社仏閣が多く、伝統的な祭りも盛んな泉州という地。第一弾として、その中部に位置する岸和田周辺エリアの魅力をたっぷりお届けします。

うまい！ 6次産業の先駆けだった泉州の水産物
●様々な漁法を駆使した江戸時代 ●岸和田藩も奨励した6次産業

うまい！ 歴史の荒波を乗り越えた岸和田城

うまい！ 泉州と水軍の巧みな技術

うまい！ 農産物を育む雨乞い踊り
●雨乞いが潤す「食」と「人」 ●水×土×人の手が生み出す泉州野菜

新鮮グルメと歴史の詰まった
泉州の漁港へ出かけよう

泉州中部6自治体 国指定文化財一覧



蛸



桐箆笥

泉州には
こんな名産品が
あります

岸和田周辺エリアの歴史

約2万年前からこの地域に人が暮らし始め、弥生時代から製塩が行われる。古墳時代には、岸和田市の摩湯山古墳など各地に古墳がつくられる。律令制国家になり、天平宝字元年（757）に和泉国が成立した。

平安時代末期に熊野詣のための熊野街道が通り、道中に王子社が設けられる。修験道も発展し、葛城修験に関する経塚や行場、寺院が鎌倉時代にかけて整えられた。

南北朝時代に岸和田氏、橋本氏、日野根氏などが活躍。戦国時代に紀州の雑賀衆・根来衆の勢力が強くなるが、豊臣秀吉によって征服された。江戸時代には、岸和田藩領や他の大名領、幕府領、貝塚寺内町などがあった。

明治維新後、明治4年（1871）に泉南地域が堺県に編入され、明治14年（1881）に大阪府と合併。平成6年（1994）関西国際空港が開港。

泉州地域は、三日月のような細い形だが、その弧状となった西側は全面が大坂湾に面しており、古くから恵まれた漁場だった。鰯、鯛、鰺、鰹、蛸など、今も人気の様々な魚種が水揚げされ、岸和田藩が保護もしたという、江戸期の水産業について詳しくひも解いてみたい。監修・文/小和田泰経



江戸時代、泉州で獲れていた水産物



泉州で水揚げされた魚。魚種も豊富であったことがわかる。



蛸

蛸のなかでも小型の飯蛸は、粕漬などにして食された。



鰯

湯引きにされることが多いが、泉州では干物にされていた。



塩引きにされた鰯は、高級品として将軍にも献上された。



鯛

鯛の鮓は、岸和田藩から将軍への
献上品となっていた。



鰈世

地引網で獲れた。干物にされて保存食にもなっている。



鰭

「ひしこ」と呼ばれ、食用のほか、干された鰯は肥料として利用。

『五畿内産物図会』 ©大阪府立中之島図書館

の境相論もたびたび起きている。それは、泉州の村だけの問題にとどまらず、摂津尼崎藩の漁船との境相論にまで発展することもあった。

このように、沖合の漁場をめぐる争いが起きるのは、漁獲が不足したことも一因である。そのため、泉州の漁船は、大坂湾の沿岸だけでなく、遠く九州の

対馬・壹岐・五島列島にまで進出していった。
 こうした遠方にまで出漁することができたのは、戦国時代の水軍が用いた操船の技術が受け継がれていたからであろう。九州での操業が許可されたのも、文禄・慶長の役で水先案内や海運に従事した歴史があつたためともいわれている。

ツルアミヒキリヨウ

いわゆる地引網漁のこと。網の裾が袋状になっており、浜辺で網を引けば、袋の中に砂地に生息している魚が入る仕組みだった。



〔摂津国漁法図解〕 ©大阪府立中之島図書館



タグリアミリョウ

手繰網漁と書き、地引網漁とは異なり沖合で行った。裾が袋状になった網の片方に樽をつけて海に投げ、網を手繰り寄せる漁。

岸和田藩領の
9つの浦で漁業が発展

大坂湾は恵まれた海であったため、泉州では古くから水産業が盛んだった。漁場となったのは、基本的には村の前面に広がる海である。そのため、漁業に適した波の静かな入り江をもつ村において水産業は発展した。岸和田藩領には9つの浦があり、北から春木浦・岸和田浦・津田浦・脇浜浦・鶴原浦・佐野浦・嘉祥寺浦・岡田浦・樽井浦となる。

泉州の漁法として一般的だったのは、地引網漁と手繰網漁である。地引網漁は、海上に広げた巨大な網を、両端につけられた綱によつて浜辺から引く漁法である。一方の手繰網漁は、地引網漁と基本的には同じだが、網を浜ではなく、沖合において小型の船から引く漁法だった。

高い操船技術で九州まで出漁する漁船も

こうした漁法で獲れたのは、
鯛・鰺・鱈・甘鯛・鯉・鮒・
鱧・鯖・鰯・太刀魚・海老・烏
賊・蛸・蟹・蛤などである。魚
種の数からしても、豊かな漁場
であったことがわかる。

ただ、豊かな漁場ゆえに、沖合では漁業権をめぐる村同士



岸和田ブランド

現代の「岸和田ブランド」認定品

江戸時代の岸和田藩による6次産業保護の精神は、現代にも受け継がれている。岸和田ブランド認定委員会（事務局：岸和田市・岸和田商工会議所）では、岸和田らしさを備えた優れた産品を「岸和田ブランド」として認定。情報発信や販売促進を行い、岸和田市の知名度向上や地域経済の活性化を図っている。24事業者25品目の認定品のうち一部を紹介する。

「しらすちりめん(太白)」 義丸水産冷蔵

港隣接の工場で 新鮮なしらすを加工

大阪湾産の脂ののったしらすを岸和田港で入札にかけ、港そばの自社工場にすぐに運び、加工した鮮度抜群のしらすちりめん。ゆで上げ後に水分を25～35%程度まで乾燥させ、天日干しと釜揚げしらすの中間にあたる絶妙な干し加減に仕上げる。1kg2500円(変動あり)。



「水なす漬(ぬか漬)A級品」 きしかん

自家栽培を行い “収穫即漬”を実現

大阪府知事認定の農家「農の匠」による自家栽培の水なすを厳選し、収穫してすぐぬか床に漬け込んだフレッシュな味わいの水なす漬。秘伝のぬかには、赤穂の塩、地酒の酒粕や椎茸、さらに北海道産の昆布だしをブレンドしている。3袋入り1410円(税込)。



「包近の桃(化粧深箱に限る)」 包近実行組合

甘さ、形、 蜜の多さ 三拍子揃った 完熟の桃

大阪府内の一歩の産地「包近」から、市場に近いために可能な完熟状態で出荷する桃。甘さ、形の良さ、蜜の多さにこだわり、糖度センサー付の選果機によって、品質の統一と安定化を図っている。道の駅「愛彩ランド」(P15)等での販売のほか、郵送による予約販売も実施。



「彩誉人参 ドレッシング」 あぐり酵房

岸和田で 開発・栽培した 甘い人参の ドレッシング

種苗会社の岸和田農場が開発し、地元農家で育てた抜群の甘さを誇る人参「彩誉」をベースに、玉ねぎ、レモン、白みその米に至るまで原材料の品質にこだわったドレッシング。道の駅「愛彩ランド」で製造、販売を行う。290ml:600円(税込)、150ml:350円(税込)。



「だんぢりまんじゅう(餡)(クリーム)」 だんぢり屋製菓



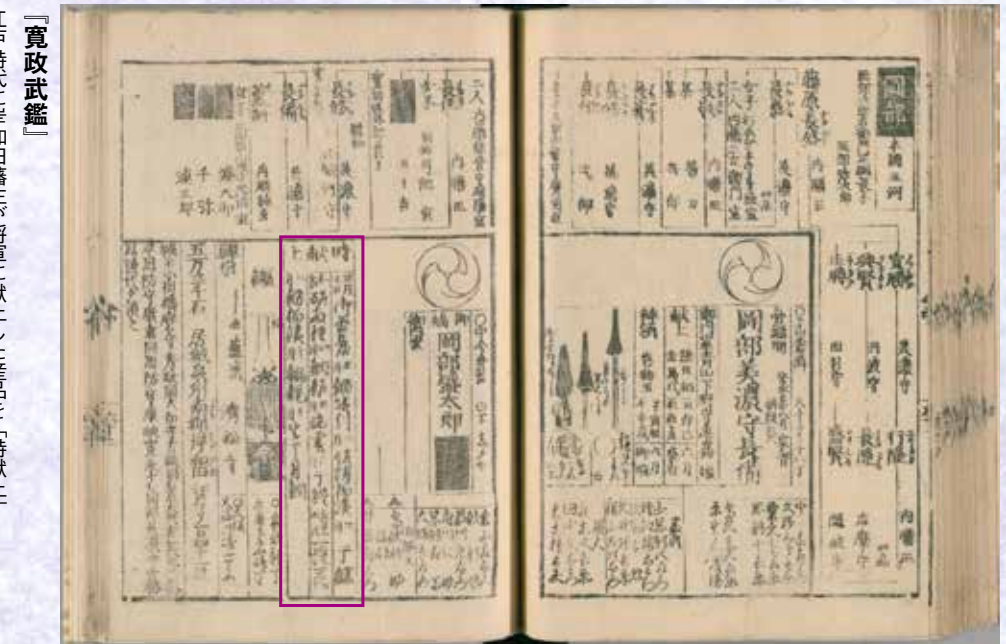
だんぢりの形そっくりな 手土産に人気のまんじゅう

2年連続、農林水産大臣賞を受賞した岸和田産地卵をカステラ生地に使用し、餡に北海道産大納言小豆を用いた、あっさりとした甘さと柔らかい口当たりのまんじゅう。実物のだんぢりを忠実に再現した特徴的な形をしている。3個入り450円(税込)。

「大阪泉州桐箆笥」 田中家具製作所

桐箆笥の最高峰 日本の伝統的工芸品

泉州は、密閉性・恒湿性・防虫性に優れる伝統工芸品の総桐箆笥発祥の地。その歴史は300年と古く、現在、大阪泉州桐箆笥のうち9割以上が岸和田でつくられる。田中家具製作所では、最高級の良質な日本の桐材を用い、全て伝統工芸士が自社工房で製造する。



『寛政武鑑』
江戸時代に岸和田藩主が将軍に献上した産品を「時献上」として記す1796年の『寛政武鑑』。これによると、水産物では鯛・鰯・鰯・鰯のほか、和泉酢が献上されていた。

国立国会図書館



堺魚市 大衆魚を扱う大坂の雑喉場と異なり、高級魚が売買された。
五畿内産物図会 ©大阪府立中之島図書館



和泉酢 古来、泉州で生産された酢は「和泉酢」として珍重されていた。
五畿内産物図会 ©大阪府立中之島図書館

岸和田藩も奨励した6次産業

水産業保護のため 藩は度々お触れを出した

泉州で獲れた水産物は、基本的には泉州で水揚げされた。岸和田藩が水産業を奨励していたためでもある。岸和田には魚市場があり、魚問屋らによって取引がされている。

ただ、泉州で漁をした漁船は岸和田だけでなく、ほかの場所でも水揚げしていたらしい。価格が岸和田よりも高かったのだろう。寛政6年(1794)、岸和田藩は「上方筋問屋江差遣候儀者格別、貝塚・面壳払候儀、今度急度、御差留被成候間、以来、心得違之者無之様可仕候」とお触れを出し、上方や貝塚の問屋に売ることを禁じている。上方というのは、大坂雑喉場の問屋であろう。

岸和田藩が当地で漁をした漁船に、岸和田の間屋に水産物を売るように命じているのは、それが重要な産品であったからにほかならない。岸和田では、水産物は鮮魚のままの「生魚之類」だけでなく、干物にした「干塩魚」に「蒲鉾」に加工され

て販売されていた。

水産物の加工品は岸和田藩の象徴のようなものであったらしい。『武鑑』によれば、岸和田藩から将軍へ鰯や鰯の干物が献上されている。

なお、水産物はすべてが食料になったわけではなく、鰯を干した「干鰯」は肥料に用いられた。泉州では「和泉木綿」と称される綿織物が産業として発達しており、綿栽培の肥料としても必要不可欠だったためである。

高級品だった泉州麻生の焼塩



焼塩は自然塩を煮し焼きにしたもので、当時でも高級品だった。泉州麻生、現在の貝塚市で生産された焼塩は江戸や京でも重宝に入れて販売されており、偽物が現れるほど人気の商品だった。

五畿内産物図会 ©大阪府立中之島図書館

うまし3 うまし1

「大坂の陣」で豊臣方の攻撃に耐え、逆に追撃して勝利

「小牧・長久手の戦い」に巻き込まれるものの落城せず

元和元年（1615）の大坂夏の陣では、小出吉政の子吉英が城主であった。吉英は大坂城の豊臣秀頼から味方になるように求められたが、これを拒絶する。そのため、岸和田城は豊臣方に攻められたが守り抜き、逆に、退却する豊臣方を追撃して勝利を得ている。



豊臣秀吉の三男、豊臣秀頼。

天正12年（1584）に小牧・長久手の戦いが始まると、雑賀衆・根来衆が2万とも3万ともいう大軍で攻めてきた。岸和田城を落とし、大坂城を狙うためである。城主の中村一氏は、むやみに打って出ることはせずに籠城し、敵の油断について出撃。岸和田城を守り切った。

根来衆の拠点だった根来寺。



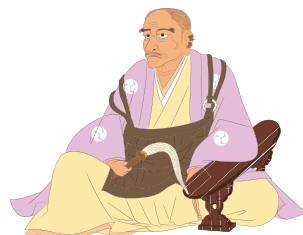
〔岸和田城年表〕											
昭和29年 (1954)	文政10年 (1827)	寛永17年 (1640)	元和5年 (1619)	元和元年 (1615)	慶長5年 (1600)	天正13年 (1585)	天正12年 (1584)	天正11年 (1583)	天正9年 (1581)	天正3年 (1575)	明応9年 (1500)
天守が鉄筋コンクリート造で再建	小出秀政によって建てられた天守が落雷で焼失	岡部宣勝が入城して岸和田城を改修。以来、岡部氏が13代にわたって居城	徳川頼宣が和歌山城主となり、岸和田城には松平（松井）康重が入城	大坂夏の陣で小出吉政の子吉英が岸和田城を豊臣方から死守する	関ヶ原の戦いで小出秀政は長男吉政とともに西軍、次男秀家は東軍につく	豊臣秀吉が岸和田城を本陣として紀州を平定、小出秀政が入城して天守を建設	雑賀衆・根来衆が岸和田城を攻撃、中村一氏が迎撃する	豊臣秀吉の命により中村一氏が岸和田城主に	本願寺との和睦後、織田信長の命により蜂屋頼隆・織田信張が入城	岸和田城主となっていた和泉守護代松浦光が家臣寺田又右衛門・寺田安太夫に討たれる	紀伊・河内守護畠山尚順によって落城、和泉上半国守護細川元有が討ち死に

うまし4 うまし2

江戸時代、岡部氏は紀州徳川家を監視するお目付け役に

「関ヶ原の戦い」で城主が東西両軍につき難を逃れる

元和5年（1619）に2代将軍徳川秀忠の弟頼宣が和歌山城に入ると、岸和田城には譜代の松平康重、続いて岡部宣勝が城主となった。これは御三家である紀州徳川家を監視するお目付け役を任されたものであったとみられており、江戸時代を通じて岡部氏が城主を務めた。



江戸時代の城主、岡部宣勝。

慶長5年（1600）の関ヶ原の戦い時、城主の小出秀政は、豊臣秀吉の縁戚でもあった。そのため、去就を迫られた秀政は、長男吉政とともに西軍・石田三成についたものの、次男秀家を東軍・徳川家康に従わせた。秀家が東軍として活躍したため、本領を安堵されている。



©アフロ

東西に分かれて戦った関ヶ原の戦い。

数多の危機を潜り抜ける
城主の機転によって

関ヶ原の戦いでは、豊臣秀頼のいる大坂城にも近いということで、城主の小出秀政は微妙な立場に立たされてしまう。このとき秀政は、長男とともに西軍・石田三成についたものの、次男を東軍・徳川家康に従わせていたため本領を安堵された。

大坂の陣では、豊臣秀頼から味方につくよう誘われたが小出吉英は拒絶。豊臣方に攻められたが、和歌山城の浅野長晟と通じて守り切った。

江戸時代になって、和歌山城に御三家の紀州徳川家が入ると、岸和田城はお目付け役となる。譜代の岡部氏は、幕府と紀州徳川家の間をうまく取り持ち、幕末を迎えている。



立ち回りが

うまし！

©岸和田市

岸和田城

江戸時代には小出秀政によって建てられた五重天守が存在していたが、落雷で焼失してしまう。戦後、三重天守として再建された。



©岸和田市

八陣の庭

名作庭家の重森三玲によって、昭和28年（1953）に造園された「八陣の庭」。陣形をモチーフにしたとされる。国指定名勝。



©岸和田市観光課

岸和田城の配置図

海沿いの段丘に築かれた岸和田城は、陸路と海路を押さえる要衝だった。そのため、合戦では陸路と海路の双方向から攻められた。

敵の北上を阻止する 防波堤だった岸和田城

岸和田は泉州の中心に位置しており、古くから要衝として認識されていたところである。そうした考えは、豊臣秀吉が大坂城を築いたことに

天下分け目の「関ヶ原の戦い」や「大坂の陣」など誰もが知っているような歴史的なシーンに数多く遭遇し、難しい立場になった岸和田城。だが、そのたびに城主たちはうまく立ち回り、歴史の荒波を乗り越えてきた。

監修・文 小和田泰経

歴史の荒波を乗り越えた 岸和田城

よってさらに強まった。岸和田城は、秀吉が居城と定めた大坂城の背後を守ることになったためである。

泉州では戦国時代から争乱が繰り返されてきたため、岸和田以南には、紀州の雑賀衆や根来衆が進出してきていた。雑賀衆は和歌山の雑賀郷を

天正12年(1584)3月、雑賀衆と根来衆が海路と陸路から攻めてきた。城主中村一氏は防戦に努め、敵の隙をついて勝利した。

管達長 大津城 真鍋貞成 岸和田城 中村一氏 雑賀衆 根来衆 和泉国 0 5km

[illegible]

小早

水軍が使用した船のなかで最も小型のもの。船体に櫓などの構造物はない。軽量のため小回りが利き、機動力には長けていた。

関船

安宅船より小さい中型の船。船体上部を装甲板で覆い、鉄砲や弓で射撃する狭間を設けるなど、防御力・攻撃力に優れていた。

最も大型の船。船体上部を装甲板で覆い、上部には二重・三重の櫓を構え、物見・攻撃に使用した。大砲を備える場合もあった。

岸和田城は海に面しており、戦国時代から水軍の拠点でもあった。絵図は江戸時代に描かれたものであるが立地は変わっていない。

子飼いの家臣として豊臣秀吉に仕え、天正11年（1583）に岸和田城主となる。紀州平定後は近江水口城主となり、小田原平定後には駿府城主として徳川家康を抑えた。

天正11年（1583）の賤ヶ岳の戦いで柴田勝家を破った豊臣秀吉は、大坂城を居城とした。その大坂城の南方を守る要衝に重臣の中村一氏をおき、雑質衆・根来衆に備えさせた。

戦国時代の泉州は、統一されていたわけではなかった。岸和田より南は、紀州の雑賀衆や根来衆が支配下においていたからである。ちなみに、雑賀衆は和歌山の雑賀を本拠とする本願寺門徒、根来衆は根来寺の僧徒を中心とした集団だった。

天正12年（1584）3月18日、小牧・長久手の戦いに乗じた雑賀・根来衆は織田信雄・徳川家康と手を結び、陸路と海路から岸和田城に攻め寄せた。大津まで進軍してきた軍勢の数は、2万ないし3万という。

織田信長が泉州に進出したとき、水軍を率いる綾井城主沼間任世や大津城主真鍋主馬兵衛が服属を誓った。天正4年（1576）の第一次木津川口の戦いで、毛利輝元が兵糧2万俵を積んだ800余艘を大坂に派遣すると、泉州の水軍は織田水軍に編入されて毛利水軍と戦う。このとき、織田水軍は毛利水軍に大敗を喫し、沼間任世の子義清のほか、真鍋主馬兵衛らが戦死した。主馬兵衛の子真鍋貞成が、のち豊臣秀吉に従って活躍することになる。

この年の11月に小牧・長久手の戦いを終結させた豊臣秀吉は、翌天正

衛が
うまい
泉州と水軍の
巧みな技術

戦国時代、岸和田以南の泉州地域は、紀州の雑賀衆や根来衆が支配下に置いていた。天下統一のために平定を目指した織田信長と豊臣秀吉、海辺の岸和田城は戦の拠点となり、水陸両方の戦いが行われ、泉州の水軍も海路を防衛するために大いに活躍した。

監修・文 小和田泰三

後を衝かれないようにした。

陸と海から攻め寄せる
雑賀・根来衆を撃退

天正12年（1584）3月18日、小牧・長久手の戦いに乗じた雑賀・根来衆は織田信雄・徳川家康と手を結び、陸路と海路から岸和田城に攻め寄せた。大津まで進軍してきた軍勢の数は、2万ないし3万という。これに対し、岸和田城には中村一氏の兵と、秀吉が派遣した黒田長政・宇喜多秀家らの兵を合わせても8000余しか集まらなかった。そのため、中村一氏は岸和田城に籠城

したのだが、真鍋貞成は岸和田城から本拠地の太津城（真鍋城）に戻ることを許されると、急ぎ100余の軍勢で太津に向かう。そして、雑賀衆の援軍として、淡路洲本から来ていた菅達長の水軍が半分ほど上陸したところを、奇襲し破ったと伝わる。

3月19日と翌20日は雨のため戦いはおこらず、21日には態勢を整えた雑賀・根来衆の一隊が岸和田城を包囲し、もう一隊が堺に向かった。このとき、中村一氏が岸和田城から打って出たことで雑賀・根来衆は総崩れとなり、堺から引き返してきたもう一隊も、壊滅する。豊臣方が挙げた首はおおよそ800という。

13年（1585）、紀州攻めを敢行した。その軍勢の総数は10万余という。3月21日、自ら大坂城を出陣した秀吉は、その日のうちに岸和田に着くやいなや雑賀衆・根来衆の城砦に対する攻撃を命じた。こうして、一両日中に千石堀城・畠中城・高井城は落城、積善寺城・沢城は開城している。なお、このときの水軍の動向については伝わらない。ただ、秀吉は小早川隆景・仙石秀久・九鬼嘉隆らの水軍を岸和田に集結させていた。沼間任世・真鍋貞成ら泉州の水軍衆は中村一氏の指揮により海上での警固にあたり、紀州から援軍として来た雑賀水軍を阻んだであろう。

3月23日、秀吉の軍勢は紀伊へと向かったが、岸和田での戦いで帰趨は決まっていた。ほどなく秀吉は難賀・根来衆を完全に屈服させ、紀伊一国を平定したのである。

美味しい！



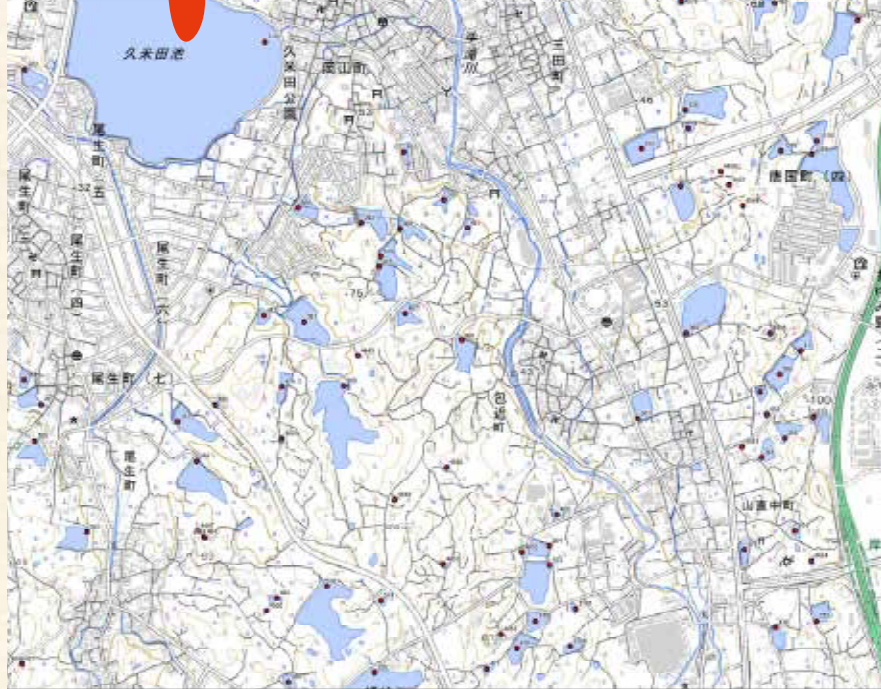
© 岸和田市



© 岸和田市広報広聴課

久米田池

大阪府最大の面積を持つため池。築造は約1300年前で、2015年に世界かんがい施設遺産に登録された。100種を数える野鳥観察の名所でもある。



点在するため池 農作物に水の恵みをもたらし、風景に彩りを添える泉州のため池。水辺に鴨や鵜などが遊び、堤の上は四季の散歩道になる。



© 夜疑神社

夜疑神社の雨乞絵馬

江戸時代に岸和田藩の絵師が描いた夜疑神社の雨乞絵馬（岸和田市有形文化財）写真は復元レプリカ）は、当時の雨乞い習俗を今に伝える貴重な資料だ。

「りの百選」のひとつで、日本遺産「葛城修験」の構成文化財にも選ばれた。泉州の雨乞いは、昔と今を結んで生き続ける文化といえる。

2000カ所ものため池が集中する泉州

泉州には、食と人を結ぶ風物詩がもうひとつある。農地の水源となるため池群だ。始まりは稲作が始まった弥生時代にさかのぼる。現在も大阪府のため池の約4割にのぼる2000カ所が泉州に集中（大阪府HP）。大阪府最大で奈良時代に行基が造ったことでも名高い久米田池も

岸和田市にある。

泉州の地図を広げれば、ため池の多さは一目瞭然。水なすをはじめ泉州野菜はたっぷりの水の恵みが「美味さ」の源だ。ため池には水鳥が訪れ、水辺の草花が四季を告げる。池の畔には水の神を祀る社も多い。

雨が少なく大きな河川もない土地柄から生まれた雨乞いとため池。ここに泉州の営みと潤いの風景がある。



© 岸和田市観光課

意賀美神社 雨降りの滝

雨降り大明神とも呼ばれる意賀美神社には、名高い滝の他に、クスノキやヤマモモが生い茂る市の天然記念物の森がある。

農産物を育む雨乞い、踊り

雨乞いが盛んだった泉州地域。それは、雨が少ない地域で作物を育てる苦労を分かち合い、雨への切なる祈りを届けるためのものだった。泉州の人々は手間を惜しまず工夫を重ね、泉州水なす、泉州たまねぎといった、泉州の名を冠した美味しい農産物までも生み出した。 監修・文／本渡 章



葛城踊り

「東西、東西」と口上を唱える男の子。色鮮やかな衣装をまとい、太鼓を手に舞う踊り子たち。葛城踊りには華がある。

岸和田市では、「葛城踊り」や「土生鼓踊り」などの雨乞いの風習が夏の風物詩として今も息づいている。雨を求めたいにしえの人々の想いは、泉州地域に2000カ所も集中する、ため池からも感じる事ができる。

夏空の下行われる各地の雨乞い踊り

雨乞い、それは過去の風習ではない。泉州では今も真夏の空の下、子供たちが花笠姿で太鼓を打つ「葛城踊り」で雨の恵みを願う。舞台は岸和田市塔原町。明治期に中断した踊りが地元の熱意で復活したのは昭和30年（1955）だった。ルーツは古く室町時代にさかのぼる伝統行事で、現在は大阪府の無形民俗文化財に指定されている。

雨が少なく泉州で作物を育てる苦労を分かち合い、踊りを神に奉納し、収穫を願う。地を潤し、作物を潤す雨への切なる祈りは、人の心も潤し



© 岸和田市広報広聴課



© 岸和田市広報広聴課

土生鼓踊り

やぐらの上で躍りあがって樽と太鼓を叩く人。やぐらを囲み、音頭にあわせて合いの手入れつつ踊る人々。熱気あふれる土生鼓踊りだ。

てくれる。そんな食と人を結ぶ風土に育まれた農産物が美味くないはずがない。泉州水なす、泉州たまねぎなど、泉州の名を冠した野菜の数々は、どれもが先人の苦心の産物だ。今では各地にその名が広まり、潤いはめぐりめぐって泉州発の「美味しい」が多くの人に愛されている。

岸和田では他にも、雨乞いにまつわる伝統が生きている。土生町に伝わる「土生鼓踊り」（市の無形民俗文化財）は、雨乞いの願いがかなった喜びに躍る太鼓の響きが、泉州の夏を盛り上げる。土生滝町の「意賀美神社 雨降りの滝」は菅原道真が雨乞いの祈りを行うなど霊験が伝えられる滝。周囲の景観は大阪府の「みど

水×土×人の手が生み出す 泉州野菜

温暖な気候に水はけのよい土、そしてミネラルたっぷりの水に恵まれた泉州。泉州の土で瑞々しく育つ水なすなど、この土地ならではの泉州野菜を、旬の月とともに詳しくご紹介します。



【泉州水なす】

美しい濃紫色の品種「網加」の登場以後、浅漬けが大人気。柔らかくジューシーな食感を楽しむには包丁で切らず、手で裂いて食べるのが一番。生のままサラダにしても美味しい。

【旬の月】 4～10月

【主な産地】 岸和田市・貝塚市・泉佐野市・熊取町・田尻町・泉南市・阪南市



【泉州ふき】

大正初期に貝塚からはじまったふき栽培は戦後泉州全域の名産に成長。現在は出荷量で大阪府下一番を誇る。新品種「のびすぎでんねん」は彩りが美しく、歯触りと香りも評判。

【旬の月】 3～5月

【主な産地】 熊取町・泉佐野市



【泉州たけのこ】

工夫を重ねて生まれた泉州の傑作野菜たち

泉州は瀬戸内式気候に属し、温暖だが雨は少ない。そこから雨乞いのため池の文化が育った。泉州の野菜

泉州の山間部で栽培が盛ん。粘りのある赤土の土壌で育ち、口当たりが柔らかい。なかでも貝塚市木積のたけのこはテレビでも度々紹介され、料亭の食材にも用いられる。

【旬の月】 3～5月

【主な産地】 和泉市・岸和田市・貝塚市



【泉州黄たまねぎ】

泉州は日本のたまねぎの発祥地。黄色つぼくて柔らかく甘みのある「今井早生」「貝塚極早生」「吉見早生」などの品種で知られる。収穫の季節に産地で見られる吊りたまねぎは泉州の風物詩。

【旬の月】 5～6月

【主な産地】 貝塚市・泉佐野市・田尻町・泉南市・阪南市



【包近の桃】

ギネス認定「糖度世界」の包近の桃は独自の土づくりと栽培技術で糖度15度以上の品だけを提供。「はなよめ」「まさひめ」「白鳳」などの品種があり、糖度20度を超える桃も。

【旬の月】 7～8月

【主な産地】 岸和田市包近町



【紅ずいき】

さといもの葉柄が、ずいき。赤いので紅ずいきと呼ぶ。和え物は昔から大阪の夏の風物詩で、今はミネラルと食物繊維たっぷりのヘルシー野菜。ダイエット食品として話題。

【旬の月】 6～8月

【主な産地】 貝塚市・泉佐野市・熊取町



【えだまめ】

若い大豆を未成熟のうちに収穫。枝付きのまま茹でて食べるのが枝豆と呼ぶ。泉州産は甘くて大粒。ビールのおつまみにぴったり。ビタミンB1が豊富で夏バテ予防も期待できる。

【旬の月】 6～8月

【主な産地】 貝塚市・泉佐野市



【大阪ねぎ】

京都の九条ねぎ、江戸の千住ねぎのルーツとされる難波ねぎは大阪の難波周辺が産地だった。現在府下では泉州が名産地。寒くなると風味が増し、鍋やうどんに欠かせない。

【旬の月】 7～3月

【主な産地】 堺市・貝塚市・泉佐野市・泉南市



【大阪いちじく】

大阪では明治以前より栽培がはじまり、大正時代には大きくて甘い品種の梶井ドーフィンが広まった。現在は泉州、南河内の名産。甘みがあり、てんぷらやジャムにも向く。

【旬の月】 8～9月

【主な産地】 岸和田市



【泉州さといも】

丸くて形がよく、十五夜の月見のお供え物になることから通称は月見芋。正月の縁起物にもなる。食物繊維が豊富な食品としても注目。品種の石川早生、泉南中野早生は泉州発祥。

【旬の月】 8～10月

【主な産地】 貝塚市・熊取町・泉佐野市・泉南市



【大阪みつば】

明治時代から堺市を中心に広まった。今も泉州が名産地で生産量は全国7位。出荷は通年行われているが、早春は特に香りが高い。カロテン、カリウム、食物繊維も豊富。

【旬の月】 9～5月

【主な産地】 堺市・和泉市・貝塚市



【大阪みかん】

鎌倉時代に起源を持つ大阪のみかん栽培は、大正時代に栽培面積が全国2位となる大発展を遂げた。今でも泉州は名産地。丘陵部では晩秋になるとみかん畑が色づく。

【旬の月】 10～12月

【主な産地】 和泉市・岸和田市・貝塚市・泉南市



【泉州きくな】

大阪の冬の味覚で鍋の人気野菜。生産量は全国で1位。鮮度を長く保つために、根付きで出荷できる品種を主に、泉州各地で栽培される。大阪ではきくなとも呼ばれる。

【旬の月】 10～3月

【主な産地】 堺市・岸和田市・貝塚市



【大阪こまつな】

大阪府下全域で栽培され、生産量は全国8位。もとは冬野菜だが、大阪では暑さに強い品種を用いて通年の収穫があり、泉州野菜としてもおなじみ。幅広い料理に使えて重宝する。

【旬の月】 10～3月

【主な産地】 堺市・岸和田市



【泉州キャベツ】

欧州が原産地のキャベツ。日本には約800年前に入り、泉州では明治以後に栽培が本格化した。現在は生でも美味しく甘い品種「松波」が名産に。お好み焼きとの相性は抜群。

【旬の月】 11～5月

【主な産地】 貝塚市・熊取町・泉佐野市・泉南市

地元農産物と花の直売所「愛彩ランド」

J A いずみの直営の道の駅で、泉州の「美味さ」満載スポット。地元産の新鮮な青果と季節の花を揃えた農産物直売所は、1780㎡の広々とした売り場でゆったり買い物できる。併設の「泉州やさいのビュッフェ&カフェ」では、旬素材の料理が約70種類も楽しめるとあって、ランチバイキングが大人気。



©岸和田市



J A 大阪泉州 農産物直売所

「こーたりーな」

「J A 大阪泉州が手掛ける直売所 泉佐野市貝塚市・泉南市などの生産者約650名から毎朝取れたての農産物が運ばれてくる。同地域では、なにわ伝統野菜の産地として有名で一般的な野菜や果物のみならず、泉州名物の泉州水なす、紅ずいきなど地元でしか買えないブランド野菜がお値打ち価格で並ぶ。」



泉佐野漁協青空市場

セリ場に直結しているのが特徴の、佐野漁港の青空市場。午後2時からのセリは一般人も見物できる。見学後は、店に並んだばかりの飛び切り新鮮な魚介を購入したい。



かけ声が飛び交う
セリ場は迫力満点

今朝獲れた魚介が並ぶセリ場は、かけ声も飛び切り生きがいい。
©eoグルメ



青空市場の鮮魚店。
ご覧の通り、新鮮ピチピチ！



青空市場の食事処イルカは、エグストラサイズの穴子丼が名物。
©eoグルメ



浜で楽しむバーベキューは、海の幸の香ばしさも格別。
©eoグルメ



佐野漁港に水揚げを終えた漁船が浮かぶ。潮の匂いがする。



駅から歩いて約15分。市街地を抜けると漁港も青空市場もすぐ。海も目の前だ。

露店販売が発展して
屋内となった「青空」市場
早朝からの漁獲が次々と港に揚がる。昼網と呼ばれる午後の水揚げがセリにかけられ、午後3時を過ぎれば、青空市場の店々の棚にもピチピチの魚介が並ぶ。鮮度がまぶしい。「今日はどれが美味しいん？」「美味しいもんしか置いてへん！」

挨拶みたいに交わす客と店主のやりとり。市場には食事処もあって、海鮮丼、天ぷら、寿司など、どれもが鮮度とボリュームが売り。何を買おうか、どれを食べようか、決めかねている初心の客もしばらくすると、これはという店に吸い込まれていく。かつては豊臣秀吉の御座船「波割丸」にも乗船し、水先案内を務めた佐野の漁民。活躍の場は遠く対馬・五島方面にまで広がったと伝える。

佐野漁港の賑わいは中世以来の海の民の歴史を思い起こさせる。昭和の中頃、浜の漁師と仲買人が漁港の目と鼻の先で魚介を露店販売していたのが、青空市場の発祥だ。今ではセリ場と一体化した屋内施設が、青空市場の心を継ぐ。2階デッキから眺める漁港の風景は格別だ。300台の駐車場完備だが、できれば泉佐野駅から港まで歩いて行こう。しっかりお腹を空かせていけば、美味しいものとの出会いもきっと盛り上がる。

泉州の漁港へ出かけよう 新鮮グルメと歴史の詰まった

江戸時代、泉州の発展に寄与した数々の漁港は、今も現役の漁港として活躍している。歴史に想いを馳せながら、新鮮グルメを楽しめる漁港巡りに出かけてみませんか。
監修・文 本渡章

みなとオアシス岸和田

新鮮魚介の購入や食を楽しめるほか、ペイサイドモールも併設されるなど一帯が港のテーマパークとなっているのが、岸和田港の「みなとオアシス岸和田」だ。



多くの人で賑わう
マルシェ開催の日曜日



食べる・買う・遊ぶ。みなとオアシス岸和田に浜の楽しみ大集合。

海から浜、港、街へ賑わいが広がる地域
地蔵浜を中心とした港へは、南海本線岸和田駅から岸和田城の天守閣を臨みながら行く。かつて海から現れ城を守護した蛸地蔵伝説の浜、新鮮魚介があふれる港が2019年「みなとオアシス岸和田」の名でひ

つつになり、賑わいをスケールアップ。新しくて懐かしい、楽しみも多彩な名所に生まれ変わった。浜に着いたら、まずは名物「きんちゃく家」自慢の生しらす丼。浜で食べる海の幸こそ贅沢の極みだ。買い物をするなら地場産品直売所の「魚、S I K A R I」。鮮魚から魚卵瓶詰までよりどりみどりでた。「地蔵

潮風を感じながら歩きたい、みなとマルシェ名物のフリーマーケット。

浜みなとマルシェ開催の日曜なら、獲れたて魚介の種類豊富な朝市、バーベキューコーナー、フリーマーケットものぞいてみたい。



「魚、S I K A R I」は獲れたてがこの値段！ついついたくさん買ってしまいそう。



きらきらと目にも美味しい、きんちゃく家の生しらす丼。



泉州の海が目の前のアクアパーク。リゾート気分ですぞろ歩きしたい。

泉州中部6自治体 国指定文化財一覧

泉州の中部に位置する6自治体、泉大津市、忠岡町、岸和田市、貝塚市、熊取町、泉佐野市における
国の指定・認定等の文化財を一覧にご紹介します。

【泉大津市】

指定等	分野	名称	所有者(管理者)
指定	建造物	重 泉穴師神社摂社春日神社本殿 附棟札1枚	泉穴師神社
指定	建造物	重 泉穴師神社本殿 附棟札5枚	泉穴師神社
指定	建造物	重 泉穴師神社摂社住吉神社本殿 附棟札2枚	泉穴師神社
指定	建造物	重 板塔婆 石造板塔婆2基	個人
指定	絵画	重 絹本著色 山王靈驗記	個人
指定	絵画	重 紙本著色 羅什三蔵絵伝	個人
指定	彫刻	重 木造神像	泉穴師神社
指定	工芸品	重 白地松鶴亀草花文繡箔肩裾小袖	泉大津市
指定	書跡	重 明恵上人筆仮名消息(井上尼宛)	個人
指定	史跡	記 池上曾根遺跡	国、大阪府、和泉市、 泉大津市ほか
登録	建造物	有 田中家住宅	個人
登録	建造物	有 旧海野家住宅	個人



泉穴師神社本殿
泉大津市教育委員会提供

【忠岡町】

指定等	分野	名称	所有者(管理者)
指定	書跡	国 小野道風筆三体白氏詩巻	正木美術館
指定	書跡	国 大燈国師墨蹟 溪林、南嶽偈	正木美術館
指定	書跡	国 藤原行成筆白氏詩巻	正木美術館
指定	絵画	重 紙本墨画 山水図	正木美術館
指定	絵画	重 絹本淡彩 騎獅文殊像	正木美術館
指定	絵画	重 紙本墨画淡彩 山水図 岳翁筆	正木美術館
指定	絵画	重 紙本墨画淡彩 六祖図	正木美術館
指定	絵画	重 絹本著色 騎獅文殊像 良全筆	正木美術館
指定	絵画	重 紙本墨画 梅花図	正木美術館
指定	絵画	重 紙本墨画 山水図 拙宗筆	正木美術館
指定	絵画	重 絹本著色 千利休像	正木美術館
指定	絵画	重 紙本墨画蓮図 能阿弥筆	正木美術館
指定	書跡	重 虚堂智愚墨蹟	正木美術館
指定	書跡	重 竺田悟心墨蹟	正木美術館
指定	書跡	重 北礪居簡墨蹟	正木美術館
指定	書跡	重 滅翁文礼墨蹟	正木美術館
登録	建造物	有 正木記念邸主屋	正木美術館
登録	建造物	有 正木記念邸腰掛待合	正木美術館
登録	建造物	有 正木記念邸中門	正木美術館



重要文化財「蓮図」
能阿弥自画賛 一幅 紙本墨画
室町時代／文明三年(1471)
正木美術館蔵

【岸和田市】

指定等	分野	名称	所有者(管理者)
指定	建造物	重 積川神社本殿	積川神社
指定	建造物	重 兵主神社本殿	兵主神社
指定	建造物	重 大威徳寺多宝塔 附棟札2枚	大威徳寺
指定	絵画	重 絹本著色 星曼荼羅図	久米田寺
指定	絵画	重 絹本著色 安東蓮聖像	久米田寺
指定	絵画	重 絹本著色 仁王経曼荼羅図	久米田寺
指定	工芸品	重 刀 無銘 伝一文字作	岸城神社
指定	書跡	重 久米田寺文書(百三十二通)十八巻	久米田寺
指定	書跡	重 紙本墨書 大塔宮令旨	久米田寺
指定	書跡	重 紙本墨書 楠家文書	久米田寺
指定	書跡	重 紙本墨書 北畠覚空書状	久米田寺
指定	史跡	記 摩湯山古墳	岸和田市
指定	名勝	記 岸和田城庭園(八陣の庭)	岸和田市
指定	天然記念物	記 和泉葛城山ブナ林	旧五ヵ荘共有地
登録	建造物	有 岸和田市立自泉会館	岸和田市
登録	建造物	有 旧岸和田村尋常小学校校舎	岸和田市
登録	建造物	有 和田家住宅	個人
登録	建造物	有 旧和泉銀行本店(C. T. L. BANK)	個人



旧和泉銀行本店 (C. T. L. BANK)



摩湯山古墳



大威徳寺多宝塔

【貝塚市】

指定等	分野	名称	所有者(管理者)
指定	建造物	国 孝恩寺観音堂	孝恩寺
指定	建造物	重 願泉寺	願泉寺
指定	絵画	重 板絵著色 天部像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 釈迦如来坐像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 十一面観音立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 聖観音立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 多聞天立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 地藏菩薩立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 帝釈天立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 難陀竜王立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 普賢菩薩立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 文殊菩薩立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 弁才天立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 弥勒菩薩坐像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 薬師如来立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 跋難陀竜王立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 虚空蔵菩薩立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 阿弥陀如来坐像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 阿弥陀如来立像	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 十一面観音立像(伝観音菩薩像)	孝恩寺
指定	彫刻	重 木造 十一面観音立像(伝勢至菩薩像)	孝恩寺
指定	史跡	記 丸山古墳	貝塚市
指定	天然記念物	記 和泉葛城山ブナ林	旧五ヵ村共有地
登録	建造物	有 水間鉄道水間駅舎	水間鉄道
登録	建造物	有 並河家住宅	個人
登録	建造物	有 山田家住宅	個人
登録	建造物	有 宇野家住宅	個人
登録	建造物	有 竹本家住宅(貝塚市北町)	個人
登録	建造物	有 利齋家住宅	個人
登録	建造物	有 岡本家住宅	個人
登録	建造物	有 尾食家住宅	個人
登録	建造物	有 竹本家住宅(貝塚市西町)	個人
登録	建造物	有 吉村家住宅	個人
登録	建造物	有 廣海家住宅	個人
登録	建造物	有 貝塚市歴史展示館 (旧ユニチカ株式会社貝塚工場事務所)	貝塚市
登録	建造物	有 南川家住宅	個人
登録	建造物	有 名加家住宅	個人
登録	建造物	有 感田神社	感田神社
登録	建造物	有 寺田家住宅	個人
登録	建造物	有 要家住宅	個人



貝塚市歴史展示館
(旧ユニチカ株式会社貝塚工場事務所)



孝恩寺観音堂

【熊取町】

指定等	分野	名称	所有者(管理者)
指定	建造物	重 来迎寺本堂 附棟札3枚	来迎寺
指定	建造物	重 降井家書院 附屋舗図1帖	個人
指定	建造物	重 中家住宅	熊取町
指定	史跡	記 日根荘遺跡(土丸・雨山城跡)	熊取町、大森神社、 個人3名



降井家書院

【泉佐野市】

指定等	分野	名称	所有者(管理者)
指定	建造物	国 慈眼院多宝堂 附仏壇1基	慈眼院
指定	建造物	重 慈眼院金堂 附棟札2枚	慈眼院
指定	建造物	重 意賀美神社本殿	意賀美神社
指定	建造物	重 奥家住宅	文部科学省
指定	建造物	重 総福寺鎮守天満宮本殿	総福寺
指定	建造物	重 火走神社摂社幸神社本殿	火走神社
指定	史跡	記 日根荘遺跡	日根神社ほか
選定	重要文化的景観	景 日根荘大木の農村景観	
登録	建造物	有 新井家住宅	個人
登録	建造物	有 池田谷家住宅	個人
登録	建造物	有 塚本家住宅蔵	特定非営利活動法人 泉州佐野にぎわい本舗
登録	建造物	有 上善寺	上善寺
登録	建造物	有 蟻通神社	蟻通神社
登録	建造物	有 大將軍湯	泉佐野市
認定	工芸品	美 短刀 銘則重	個人



蟻通神社

We continue Shaping a New Journey

私たちは、
新しい旅と体験のゲートウェイとしての
価値を追求し続けます。



KANSAI AIRPORTS 公式 Instagram

<https://www.instagram.com/kansaiairports/>

Shaping a New Journey

 **KANSAI AIRPORTS**